The Young Women's Christian Association
YWCA

10
OCTOBER 2022
No.770

www.ywca.or.jp

〈第33総会期主題聖句〉
平和を実現する人々は幸いである
―マタイによる福音書5章9節―

〈ビジョン〉
女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にする社会

〈ミッション〉
若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉
キリスト教基盤　平和・環境　人権　セーフスペース

特集 わたしに関わる大切なこと

2～3面 寄稿・谷口真由美（法学者）
わきまえない女のツッコミは
民主主義を前進させる
4面 改憲に流されない！
6～7面 核の脅威に流されない！

長期化する戦争、核の脅威、物価高、コロナ禍の陰……
不安や不信が重なると、
大切なことが見えなくなりがちです。
社会の大きな潮流に流され、あふれる情報に流されて、
誤った判断や選択をしたくない。
だからこそ、立ち止まろう、立ち続けよう、声を上げよう。希望の明日に向かって。

「わきまえない女」に聞いてみた

流されないって、どうすりゃいいの

法学者・大阪芸術大学客員准教授
谷口真由美

とても大切で とても難しいこと

「流されない」って、とても大切なことだというのと同時に、とても難しいことなのだなと思うのです。

なぜかといえば、誰かの意見や世の中のふわっとした空気に「流される」というのは、自分の意思とか気持ちとかを無かったことにしたり、押し殺したりすることだと考えるからです。また、その手前で、自分の意思や気持ちすら、持てないよう／持たないよう、考えないよう／考えられないようにされていることもありますね。同じように、自分の意思や気持ちを持つのは、面倒くさいことにつながるよということを、誰かから刷り込まれたりもしているかもしれません。東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の会長だった森喜朗氏から、女性が入る会議は長いので「わきまえない女」と名指しされた私がいうのもなんですが（笑）。

思い返してみれば、これまでの人生で「めんどくさいヤツ」、「うるさいオンナ」、「黙ってたらかわいいのに」と言われてきた経験がとても多い私は、こんなことも言われ続けてきました。「そんなことを言ったら大変なことになるよ」、「言ったところで何も変わらない」、「陰から応援してるよ」と。どんな大変なことが待ち受けているのか聞いても、誰もきちんと答えられないし、言ったら変わったこともあるし、陰から応援するって応援しているみたいだけど表には出てきたくないし、仲間とは見られたくないってひきょうな言い回しだなと思ったこともしばしばです。

誰かに力を奪われて いないだろうか

森喜朗氏から「わきまえない女」と名指しされた当時、私は日本ラグビーフットボール協会の理事であり、同協会内のラグビー新リーグ（現リーグワン）準備のために特別に設置された準備室長と、参入を希望するチームを審査するための審査委員長というポジションにありました。いろいろあって、現在はラグビー協会には何も関わっていないのですが、このときに私にラグビー協会の中枢にいる関係者たちは、「谷口さんは何も考えずに、みんな（ラグビー経験者の重鎮や、政治関係、スポーツビジネス関係）の言うことを聞くほうがうまくいく」とか、「頑張ったところで、どうせ何も変わらないですよ」、「上の人の言うことに逆らっても、何もいいことはないですよ」とアドバイスされました。

これって、日光東照宮にある「見ざる聞かざる言わざる」のおサルさんみたいになれってことですよね？　そうしたほうがうまくいくというアドバイスは、誰の、何のためなのでしょうか？

また、こういうアドバイスもどきが、どこかで頑張ろうとしても、周囲から「力を奪われる」状態に追いやられることも、同時に認識されたほうがいいと思うわけです。

流されないために、立ち止まるためには、いったん自分の中で「溜め（タメ）」を許容できる「胆力」みたいなもの、それに「考える時間と力」や「学ぶ時間と力」が必要なのですが、そもそも力を奪われた状態ではそれはできません。人から奪われるだけでなく、生きている環境などから奪われることもあるでしょう。仕事が忙しすぎて、日々の自分の生活に手いっぱいで社会の問題なんて、他人がどうなってようが知ったこっちゃない！　という意見があることも承知しています。

小さな違和感を 見逃さないで

そして、「流されない」という言葉を気にしていたら、先日、ふらっと入ったお蕎麦屋さんの女子トイレの窓枠に、こんな言葉が書かれた木の飾りが掲げられていました。

愛される妻であるために
夫より早く起き
料理上手できれい好き
働き者で機転を利かせ
ハイハイ　ニコニコ　優しい女
世間に遅れず流されず

自分をバカだと笑いつつ
上手に甘えて可愛い女
女を忘れず　おしゃれもしましょ

一度目にトイレに入った時は、食事前でした。「頑固おやじの○○」とか、こういう格言（？）みたいなお土産とか買う人いるよねぇと思うのと同時に、強烈な違和感を覚えたもののお腹もすいていたので、変なものを見てしまったなぁとそのままトイレを後にしました。おいしいお蕎麦をいただいて、お店を出る前にどうしてもこの言葉が気になって、トイレに再び入りました。急ぎでもなく、お腹も満たされた後にもう一度読むと、「なんじゃこりゃ」となりました。とりあえず、携帯で写真を撮ってお店を後にしました。このあと、少し時間が経過して私の思考を振り返ると、以下のようなものです。

①うわー、おっさんにとって都合のいい女！
②それなのに、自ら望んで自発的にふるまっているように書かれている
③こんなこと続けろって言われたら、しんどすぎて別れるな
④前近代的というか、差別的な「妻」像であると同時に、差別的な「夫」像でもある
⑤DVを受けていても、これを読んだら私が悪いのかもって自分を責めそう
⑥「流されず」ってこんなときに使う言葉なの？
⑦女性客がこれをみたら、店主はこういう思想なのね、残念ねって思われるのに、いいこと書いてるでしょ、男性には見せないように女子トイレに飾っているところがステキでしょって思っているように見える

普段、何にでもツッコミをそれなりに入れられる私でも、お腹がすいていて、大切な人を待たせている状態では、違和感は覚えても言語化しようというところまで至らなかったのです。それが、おいしいものをお腹いっぱい食べた後で、時間もあるという状態になったところで、ツッコミを入れられる力がゆっくりと湧いてきたということなのです。もし、お蕎麦を食べている時も急いでいて、あわてて店を後にしたらこの文章を思い出すこともなかったかもしれないな、とも思うわけです。それから、普段から、日常のささいな違和感を見逃さないように、トレーニングをしているような状態を続けているからかもしれません。

日常へのツッコミが民主主義の進歩に

こんな個人的な日常へのツッコミが、民主主義の進歩につながるのだと信じています。なぜなら、「個人的なことは政治的なこと」だからです。このお蕎麦屋さんの「愛される妻であるために」が、商品化され販売され購入し、良いことだと飾る人がいて、こういう「妻」像を押し付けられ苦しんでいる人がいると想像し考え発信することは、社会問題に気が付き、解決の手立てを考える第一歩になると思うからです。だからこそ、小さな違和感を大切に、それを文章が苦手なら、絵を描くことや川柳を詠むなど、ほかの手段でもいいので表現をしてみると良いのではと考えます。

そして、「社会の問題は自分の問題」でもあるのではないでしょうか。私たちが暮らすこの社会の問題は、誰かの問題ではなく私の問題でもあるのだと考えられる力もまた必要です。「力を奪われた状態にある人」のことを、自分のこととして捉えるためには、社会課題を遠くの問題として捉えないことが大切ですね。それは、日本という国の政治のあり方もまた、自分のこととして捉えることです。日本国憲法の「日本国民」や「われわれ」という主語を、「私」など一人称を入れて読んでみると少し近くなりますよ。例えば、こんなふうに。主語が自分になれば、述語や動詞はすべて自分にかかってきますものね。どうぞお試しあれ。

わたし（日本国民）は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、**わたし**（われら）と**わたしたち**（われら）の子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が**わたし**（国民）に存することを宣言し、この憲法を確定する。

（日本国憲法前文より）

profile

谷口真由美　［たにぐち・まゆみ］

1975年、大阪府生まれ。大阪大学大学院国際公共政策研究科博士課程修了。大阪大学非常勤講師（日本国憲法）、大阪国際大学グローバル経済学部准教授を歴任。2020年から大阪芸術大学客員准教授。「サンデーモーニング」などテレビ・ラジオ番組出演のほか、講演や寄稿など多方面で活躍。社会問題に大阪のおばちゃん目線で鋭くつっこみ、問題提起し、分かりやすく解説する。著書に『日本国憲法　大阪おばちゃん語訳』（文藝春秋）、『お笑い自民党改憲案』（金曜日）など。

改憲に流されない!

身近なことに引き付けて平和憲法を伝えよう

松山YWCA会員・愛媛県議会議員 武井多佳子

一人の女性の死と日本国憲法

2022年7月の参議院選挙で、「改憲派」が改憲発議に必要な3分の2の議席を占める結果となりました。今が正念場であることは間違いありません。また、発議させないための妙案があるとは思えません。そこで、「憲法9条は守りたいね」という声を広げるために、みんなで知恵を出し合っていきましょう。

みなさん、2020年11月、東京都渋谷区のバス停のベンチで夜を明かしていた大林三佐子さんが突然男に頭を殴られ死亡した事件を覚えていますか。1年後に追悼集会が行われ、集まった女性たちは「彼女は私だ」というプラカードを掲げました。私も同じ思いでした。彼女の死は、私たちに何を問いかけているのでしょうか。大林さんはDVによる離婚を経て、非正規雇用に従事し、そこに、コロナ禍が直撃し、路上に放り出され、殺されたのです。まだまだ、日本社会に女性の貧困や差別が存在し続けていることを突きつけられました。ジェンダーギャップ指数146カ国中116位の解消を本気で目指すなら、この現実から目を背けることはできません。

私たちは日本国憲法によって、このように保障されているはずです。

第13条　すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

第14条　すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。

第25条　すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

大林さんの死によって、私は、憲法の保障する権利を守るために不断の努力を怠ってはいけないことを心に刻みました。

「戦争の放棄」なくして自由も平等も幸福もない

残念ながら、改憲派は、ロシアによるウクライナ侵攻を利用し、防衛費をGDP比2%（10兆円）に増やす軍備拡大を示し、国民の不安を煽っています。特に、憂慮されるのは、沖縄・南西諸島で進められているミサイル配備などの軍事拠点化です。アメリカに追随し、台湾有事を声高に主張すれば、偶発的な中国との戦火を招きかねないのではと緊張が高まります。

今、改めて、「平和なくして平等なく、平等なくして平和なし」という市川房枝さんの言葉が思い起こされます。第9条の戦争の放棄なくして、私たちの自由も平等も幸福もありえません。私たちにできることは、もちろん改憲反対の意思を打ち出すことです。あわせて、やるべきは、私たちの周りで起きていることを憲法の一つひとつに引き付けて、思考し、想像し、言語化し、共有することではないでしょうか。この意味から、大林さんの事件は忘れてはならないと思うのです。私たち自身が憲法を生活に根付かせようと行動することは改憲阻止への底力となります。

私が、2002年から、ジェンダーバッシングにさらされながらも、ジェンダー平等を求めて、少数派の女性議員として何とか活動できたのは、憲法第14条「法の下の平等」、第24条「両性の平等」に支えられたからです。憲法の力です。いつ改憲が発議されるかという時だからこそ、自分の生き方に照らして愚直に平和憲法を伝えていきませんか。

イラスト／大島史子

YWCAの本棚

流されないために読んでおきたい！

自分に直結する大事なことだから、もう少し深めてみませんか。初心者はもちろん、分かっている人、分かったつもりの人にもお薦めしたい4冊をご紹介。いずれも学者・専門家による本ですが、分かりやすかったり、エッジが効いていたりして、興味深く読めるはず。秋の夜長に、ぜひどうぞ。

『ハッキリ言わせていただきます！ 黙って見過ごすわけにはいかない日本の問題』

著／前川喜平・谷口真由美　発行／集英社
1600円＋税

ラジオ番組「谷口学園　春のラジオ講座」の収録で出会った、大阪のおばちゃんと奈良のおっちゃん。二人の「愛のある、お批判」の続きが聴きたい！というリスナーの声から生まれた対談本。ここでも「教育の基本は『憲法』」と、ぶれない二人。世の中の動きを黙ってスルーしていると、なんでも閣議決定で決まってしまう、理不尽だらけの日本社会とどう向き合うのか。イマドキの子どもを取り巻く環境や官僚時代の裏話に触れながら、批判しても何も変わらないとお疲れモードの私たちを励ましてくれる。

『ぶっちゃけ、誰が国を動かしているのか教えてください 17歳からの民主主義とメディアの授業』

著／西田亮介　発行／日本実業出版社
1600円＋税

政治や社会に関心を持つ、自分で考えて投票する、それが大事なことだって分かったけれど、ぶっちゃけ、だからこそよく分からない――。初めて政治に目を向けたときに抱きがちな素朴でリアルな疑問やモヤモヤに、気鋭の社会学者が答える一問一答の入門書。国を動かすとは、民主主義とは、自由とは……グラフやイラストを取り入れ、専門用語も言い換えて説明する。特に「メディアと政治の本当の話」の章は秀逸。テレビよりもネットの情報が正しそう、と感じている若者だけでなく大人にも勧めたい。

『自分ごとの政治学』

著／中島岳志　発行／NHK出版
670円＋税

「簡単には分かり合えない多様な他者とともに、何とか社会を続けていく方法の模索」それが、政治学者である著者の考える「政治」だ。決して難しく遠い存在ではない。日常を丁寧に見渡せば、身近な出来事が政治につながっていることに気付くという。本書では「右派と左派」や「民主主義と立憲主義」などの概念や政治の仕組みを分かりやすく説き、さらに、西洋（近代）一辺倒ではなくアジアの先人の思想や歴史に触れながら、政治と自分とのつながりに気付かせる。世の中の見つめ方の手引書でもある。

『なぜ原爆が悪ではないのか アメリカの核意識』

著／宮本ゆき　発行／岩波書店
2900円＋税

広島・長崎を経験し、原爆は非人道的な兵器であり廃絶すべきと考える日本人。他方、米国人は核（原爆・原発）を手なずけられる「力」であり必要悪とみなす。広島出身で米国の大学で倫理学を教える筆者は、この核意識の差は米国における戦争の「語り」に由来すると考え、教育、大衆文化、社会規範、消費等がいかに「語り」を再生産してきたかを解き明かす。ロジックの違いを認識し、米国のみならず核保有国と核の傘下にある国々に核兵器禁止条約批准を促すための新たな平和の「語り」を構築するヒントとなる1冊。

核の脅威に流されない！

和解による平和な時代を築いてください

広島YWCA会員 戸田照枝

1945年8月6日、当時13歳の戸田照枝さんは学徒動員先で被爆し、九死に一生を得た。後年になって「命ある限り、ヒロシマの声を叫びたい」と閉ざしていた口を開き、2017年に85歳で亡くなる直前まで証言を続けた――。ロシアによるウクライナ侵攻で核の脅威が高まり、日本でも核の抑止力を支持する声が上がる今、戸田さんが遺した声に耳を傾けてみたい。日本YWCAのプログラム「ひろしまを考える旅※2009」で若い世代に向けて語られたメッセージを共有する。

隠れるように生きてきた人生でした。被爆体験は生涯思い出したくない、話したくないと思っていました。

77年前に7人きょうだいの末子として生まれました。その前年に15年戦争が始まったのです。自宅のある宇品には港があり、全国から集められた兵士たちが毎日のように戦地へと送られていく、加害の街でもありました。食べ物も薬も、着るものもない、乏しい時代でした。父と2人の兄は続いて病気で亡くなり、終戦までに2人の兄が戦死し、残った兄も特攻隊に送られ、そのような中で8月6日を迎えました。

◆

私は13歳でした。動員先の集合場所で、級友とおしゃべりしながら全員がそろうのを待っていました。読書や合唱をする人もいました。友人の大谷さんが前に立って私の髪を編んでくれていました。誰かが「B29だ」と叫んだので見上げると、ピカッと辺り一面が光りました。フラッシュを何百、何千も一度にたいたようでした。同時に耳をつんざくような爆発音がして、私は鉄階段と建物の下敷きになって気を失っていたようです。しばらくすると「助けてお母さん」「熱いよ」「耳が取れたよ」と泣き叫ぶ声。私は必死に這い出ました。作業に来ていた男子中学生が50人くらい、火だるまとなって体中がぼうぼうと燃えて逃げ惑っていました。

◆

大谷さんを探すと、大の字になって白目をむいて倒れていました。級友たちは生き埋めになり、うめき声を立てて。どうしよう、どうしよう、気が付いたら辺りは火の海です。燃え盛る火の中をくぐり抜けました。通りがかった兵士に宇品の様子を聞くと「帰るところなんかありゃせん。全部火の海だ。女は裸で逃げよる」と言いました。泣きながら避難者の列に加わりました。中学1年くらいの女学生たちと女の先生がいました。先生はモンペのゴムひもだけが残って身体の前後もわからない状態でした。裸ですから、避難者の列が通るたびに先生は木の陰に引っ込まれたり、また出られたり。そのたびに生徒も一緒に付いてまわり、もう見る方も辛かった。それから私は、皮膚がワカメのように垂れ下がり赤黒く何倍も膨れ上がった人たちの中で、歩いている人の足にすがりつくように「水をください」と最後の声を振り絞って叫ぶ人の中で、多くの人がばたばたと倒れて亡くなられていかれたその上をまたいで、郊外のわが家へと避難したわけです。

◆

※ひろしまを考える旅：日本YWCAが1971年から続けている平和プログラム。中・高・大学生を中心に幅広い世代の参加者が広島に集い、共に被爆の痕跡に触れ、人に出会い、思いを聴き合い、考え合う体験型スタディツアー。2023年3月に開催予定。

毎日あちこちで遺体が焼ける匂いがしました。異様な匂いでした。私も、建物疎開の作業中に死んだ友だちを、壊れたタンスの引き出しに入れて、焼きました。川のほとりはもう、そういう焼き場になっていました。

原爆投下の前日は久しぶりの休みで、友だち5人と川遊びをしたんです。いつB29が襲ってくるかという状態で、命がけで遊びました。もういいわ、楽しい思いを一時、一回でもしようって感じでね。きれいな深い川でした。キャッキャッと笑いながら楽しんで泳いだ、その川が死骸でいっぱい、川面が見えないほどでした。

あの日から64年の月日が流れました。自分だけが逃げて帰ってきたことが今も心に突き刺さって離れません。私は被爆したのに腕が折れただけで、ほとんど無傷でした。逃げる途中で白いブラウスが真っ赤になっていることに気が付きました。級友たちの返り血だと思います。履いていた靴もなくなり、火の海の中どうしようもなく、他人の靴を履いて逃げたんです。友だちのおかげで避難ができてね。それはもうすごい負い目っていうのかね。どう表現したらいいのかわかりませんけれども……。私だけが、あまりにも長く生きて、申し訳ないと思いながら生きています。皆さんの前に出るのは気が引けましたが、戦争の面影がだんだんとなくなり、残された者が今語らなければ、あのとき亡くなった人たちの思いをどうにかして伝えなければ、私は死ぬことができないと思っています。あの日のことを繰り返してはなりません。どうぞ、若い皆さんにこれからの平和な時代をしっかり築いていただきたい。守っていただきたい。そのためには争いや競争ではなく、和解の中で、お互いの立場を認め合いながら、本当に平和な世の中をつくっていただきたいと願っています。（2009年）

Column

ホンキの核なき世界への希望 今こそ、核兵器禁止条約を！

2017年に国連総会で採択された核兵器禁止条約は、核兵器を非人道兵器として全面的かつ完全に禁止した初めての国際条約です。作ること、持つこと、使うこと、使うと脅すこと、これらに協力することも禁止しています。ホンキの核なき世界への希望です。

ヒロシマの「安らかに眠って下さい　過ちは繰返しませぬから」、ナガサキの「長崎を最後の被爆地に」とのヒバクシャの方々の悲願が、この条約に込められています。私たちは、原爆で声を上げることなく亡くなった死者の声も聴かなければならないと思います。

日本YWCAは広島・長崎の被爆証言や遺構との出合いにより、原子力発電も含む核と人類は共存できないと知りました。原爆の悲惨さと日本軍の加害の歴史とも向き合い、「ひろしまを考える旅」を50年以上続けています。次世代に伝えなければならないと信じるからです。

なぜ日本はこの条約を批准していないのでしょう。日米安全保障条約があっても批准できます。NPT（核兵器の不拡散に関する条約）は、核兵器を持ってよい国といけない国とを分断することにとどまり、動けていません。世界が核戦争の崖っぷちに立たされているさなかに開催された第10回NPT再検討会議は残念ながら決裂しました。核兵器を持つ国とそれに依存する国が、核兵器の使用・威嚇を前提とした核抑止政策を続けているからでしょう。核抑止論は幻想です。NPTを補完するためにも、唯一の戦争被爆国として日本は核兵器禁止条約を批准すべきです。

国際機関には課題が山積していますが、ニューヨークの国連広場の壁に刻まれた聖句を実現させるために、共に学び続け声を上げていきましょう。

「彼らは剣を打ち直して鋤とし 槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」（イザヤ書2章4節）

日本YWCA平和・核委員会 **横山由美子**

エンパワーするNGO
YWCA

中高YWCA全国カンファレンス2022報告

世界につながるいのちのチカラ

8月2日・3日、「世界につながるいのちのチカラ」をテーマに、中高 YWCA全国カンファレンスがオンラインで開催されました。20校から生徒、顧問、地域 YWCA会員・職員など約 200人が参加しました。基調講演はフォトジャーナリストの大藪順子さん。写真から、マスメディアの情報がマイノリティをどのようにしばってきたのか、作られたイメージなど、中高生にとって興味のある話を聞きました。インドからの中継で、世界YWCAのユースメンバーからセーフスペースやリーダーシップの話を聞くことができたのは、オンラインならでは。高校生からの質問にもその場で答えていただきました。また、全国で活動する地域YWCAのメンバーが、それぞれの取り組みをテーマにワークショップを開催。たとえば沖縄 YWCAからは基地問題、新潟 YWCAはSDGsとエネルギー、熊本 YWCAは在留外国人の問題、大阪 YWCAは多文化共生、ルッキズム、東京YWCAは対等なパートナーシップ、横浜 YWCAは政治参加、京都 YWCAからは自分らしい生き方など、多彩なテーマで繰り広げられました。最後に生徒たちはワークショップの報告をし、これから何を考え、何ができるかを発表しました。中高生たちが、オンラインを通して世界や全国とつながり、そこに仲間がいること、活躍している YWCAのメンバーがいることを知り、自分たちにできることを学び、考えた 2日間でした。次回は隣り同士に座って話しあい、共に食事ができるカンファレンスであることを祈っています。

プール学院中学校高等学校
YWCA部顧問　**松原恵美子**

ご協力ありがとうございます

賛助費
秋元靖子　浅田啓　荒川知子
五十嵐和子　石橋さなえ　板橋俊子
伊藤眞代　臼田治子　梅林宏道
江崎啓子　笈川光郎　大澤恵美子
大野綾子　尾嵜敦子　織田光恵
梶原恵理子　片山惠　狩野紀昭
河崎純子　河津百合　北原恵美
桐村亘子　具島美佐子　坂上信子
汐崎貞子　篠原洋子　柴沼喜久子
庄子泰子　白井邦子　杉本康雄
諏訪昭子　髙月三世子　武井真美子
田中綾　田中暉彦　俵恭子
辻加代　土屋幸子　露木美奈子
寺嶋公子　寺山朝子　都木惠子
常葉俊子　鳥海百合子　鳥飼好男
中田貞子　中橋美鈴　新田和子
畑山みさ子　花盛静子　原紀子
平石あつ子　藤井京子　古川道子
堀内香代子　牧甫　松岡信子
松田和子　松村ユカリ　三股恵美子
三股まさ子　三宅純子　宮澤玲子
馬上貴美子　毛利亮子　望月和子
桃井明男　安田寛子　八村悠紀子
山本貴美子　芳川雅美　和田崇子
渡辺園子
匿名

ピースメーカーズ募金（平和を創り出す女性のリーダーシップ養成）
阿部方子　稲垣弥竝　片山惠
久保マサ子　坂上信子　清水嶋洋子
白井邦子　諏訪昭子　関むつみ
外山真理　俵恭子　辻加代
都木惠子　常葉俊子　徳永明子
鳥海百合子　中平多惠子　新田和子
野村春江　馬場元毅　藤谷佐斗子
古川道子　松下真佐子　松田和子
三股恵美子　村上千代子　毛利亮子
安田寛子　山内明子　山本貴美子
和田崇子　渡辺園子

災害時支援募金（オリーブの木キャンペーン募金）
粟野智子　市川真美恵　稲垣弥竝
川上哲　北原恵美　坂上信子
坂和優　庄子泰子　白井邦子
関むつみ　髙月三世子　髙橋千沙子
田中甫　俵恭子　鳥海百合子
新田和子　野々村豊子　林育一郎
福田公子　毛利亮子　桃井明男
安田寛子　山本貴美子

（国内外の災害被災者支援）
秋元靖子　太田ゆかり　織田光恵
梶原恵理子　片山惠　嘉屋陽子
桐村亘子　郡恭子　汐崎貞子
汐崎康子　白井邦子　俵恭子
都木惠子　鳥海百合子　新田和子
籏眞紀子　福田公子　古川道子
松村ユカリ　毛利亮子　森朋子
山本貴美子　山本容子　和田崇子
一般社団法人札幌YWCA
匿名

（ウクライナ支援）
関家美都子　高橋礼子　調幸子
畑山みさ子　東根順子　渡辺知子
日本基督教団御影教会
日本キリスト教協議会女性委員会
世界祈祷日事務所
一般社団法人札幌YWCA
一般財団法人仙台YWCA
新潟YWCA
一般財団法人平塚YWCA
公益財団法人福岡YWCA

（パレスチナYWCA支援）
粟野智子　板橋俊子　稲垣弥竝
榎本みつ枝　片山惠　小髙聡美
庄子泰子　白井邦子　関むつみ
外山真理　俵恭子　手島千景
寺嶋公子　徳永明子　鳥海百合子
藤谷佐斗子　古川道子　牧甫
三股恵美子　三股まさ子　宮澤玲子
毛利亮子　山本貴美子　和田崇子
日本キリスト教協議会女性委員会
世界祈祷日事務所

東日本大震災被災者支援募金
片山惠　具島美佐子　汐崎貞子
庄子泰子　白井邦子　杉本陽子
関むつみ　外山真理　俵恭子
常葉俊子　鳥海百合子　野澤節子
古川道子　松田和子　宮澤玲子
毛利亮子　桃井明男　山本貴美子
吉岡真紀子　依田良子　和田崇子

（カーロサポーターズ）
カーロサポーターズ　56件

（2022年6月16日～8月15日敬称略）

発行所 公益財団法人日本YWCA　〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11　東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121　Fax.03・3292・6122　office-japan@ywca.or.jp　www.ywca.or.jp
編集発行人 実生律子／偶数月1日発行
旬な情報発信しています　メルマガ登録　y-net@ywca.or.jp　にお名前を送ってください ／ フェイスブック　www.facebook.com/YWCAJapan

無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。